

材料工学における科研費申請

坂 公 恭*

日本金属学会会員諸兄の多くは基盤研究等(基盤研究, 萌芽的研究, 奨励研究(A))の研究種目の科研費を「材料工学」分科で申請されると思われるので, 「材料工学」分科における配分審査について以下に概略を述べる。

「材料工学」分科は表1に示すような6細目から成っている。基盤研究等は二段審査で審査される。

第1段審査は各分科・細目ごとに3人または6人の審査委員が専門的見地より所定の基準に基づきそれぞれ独自の観点から課題の審査が書面によって行われる。審査に際しては, 各審査委員の個人の責任と見識において独自の評価がなされ, 研究課題の評価を合議などの結果により行うことは禁止されている。

第2段審査は第1段審査の審査結果に基づき, 合議により, より広い立場から総合的な判断を行い, 必要な調整を行った上で採択候補課題を選定する。

これらの審査は学術審議会科学研究費分科会審査部会基盤研究等審査会で行われるが, 「材料工学」分科の審査委員候補者の選出は日本金属学会, 日本鉄鋼協会, 日本化学会, 日本セラミックス協会などの関連学協会が世話学協会あるいは幹事学協会となり行っている。その意味で各関連学協会の果たす役割と責任は大きい。

各分科への科研費の配分額は, 当該分科への申請総額と申請件数の増加とともに増加する仕組みになっている。また,

表1 材料工学分科の細目。

分 科	細 目	幹 事 学 会
材料工学	金属物性	日本金属学会
	無機材料・物性	日本セラミックス協会
	複合材料・物性	日本化学会
	構造・機能材料	日本金属学会
	材料加工・処理	日本金属学会
	金属生産工学	日本鉄鋼協会

採択件数も申請件数の増加とともに増加する仕組みになっている。

新規の研究課題の採択率が15~30%前後である現状に鑑み, 前年度の申請の採択, 不採択に拘わらず, 「材料工学」分科の「金属物性」, 「構造・機能材料」, 「材料加工・処理」, 「金属生産工学」などの細目へ, 可能な限り積極的に, できるだけ多くの, しかも必要経費を十分盛り込んだ大型の積極的申請を行うことが, 金属・材料系分野への配分の総額を伸ばし, ひいては, 会員諸兄の研究課題の採択数を上げることになる。

基盤研究, 萌芽的研究, 奨励研究(A)以外の重点領域研究の研究領域や研究課題の選定や特別推進研究の配分審査は上記の基盤研究等の審査とは別途行われている。

* 名古屋大学教授; 工学研究科量子工学専攻(〒464-01 名古屋市千種区不老町)
Application for Grant-in-Aid for Scientific Research in the Field of Materials Engineering; Hiroyasu Saka(Department of Quantum Engineering, Nagoya University, Nagoya)
Keywords: Grant-in-Aid for Scientific Research, material engineering
1997年6月11日受理